

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和2年8月28日(金)発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

手をたずさえて

暑さに負けることなく、1本の襷をしっかりと繋ぎました！

8月27日(木)開成山陸上競技場において「第63回郡山市中学校駅伝大会・第35回郡山市中学校女子駅伝大会」が開催されました。7月から練習を開始し、夏休みも暑さの中走り込みを続けてきた特設駅伝部の生徒達。競技前には、実際に走るの女子5名、男子6名ですが、駅伝部全員の心をひとつにしてチャレンジしてほしいと話しました。しかしながら、条件はみな同じとはいえ、気温30度超えの真夏日の中での厳しい戦いでした。

女子は5区間(1区・5区が3km、他は2km)の開成山公園内周回コースで、10時にスタートしました。当初女子はチーム編成自体難しいと言われていましたが、全員2年生というメンバーで大会に臨みましたが、5名とも最後まであきらめることなく走り抜き、1本の襷を繋ぎきりました。結果は20位でした。思うような走りができずに悔しがっていた生徒もいましたが、全員2年生ということで必ずや来年度に繋がると考えます。

男子は6区間(1区間3km)で、11時20分にスタートしました。さらに気温も上がり、暑さとの戦いにもなりました。3区菅野優君、4区佐竹薫君の両名は、ともに区間5位というすばらしい力走を見せてくれました。8位入賞をめざしていましたが、惜しくも届かず10位という結果でした。今回の駅伝では、佐竹君、森谷樹君(1区)の2名の3年生が本当によく部員を引っ張ってくれました。彼らの働きは本当にすばしかったです。心から感謝します。男子も他は2年生ということで、来年度に向けて“入賞”という明確な目標ができたと思います。

そして、大切なのは順位ではなく、今日まで特設駅伝部として活動が続けられたことができたこと、最後までやり抜くことができたことです。そこに大きな意味があります。自分との戦いがたくさんあったと思います。時にはくじけそうになったり、自分の弱さに負けてしまいそうになったりしたこともあったことでしょう。本番では満足のいく走りができず悔しい思いをした人もいたことでしょう。しかし、それらを乗り越えて“今”があります。どうか自信と誇りをもってください。特設駅伝部での経験は大きな財産になると確信します。駅伝部の生徒達に拍手をおくります。お疲れさまでした。



県中地区の頂点に立つ！ 東北新人野球大会県中地区大会“優勝” 学年別ソフトテニス大会では伊野・岡島ペアが第3位に輝く！

第18回東北少年軟式野球新人戦大会県中地区予選大会において、8月22日(土)ふるさとの森野球場で行われた決勝戦で、本校野球部は高瀬中に4対1で勝利し、見事優勝を果たしました。船引中に7対3、守山中に2対1、準決勝では小野中に6対1で勝利しての決勝戦でした。最小限の失点におさえるとともに、終始攻撃を続け、優勢に試合を進めての勝利でした。また、8月7日(金)に郡山庭球場で行われた郡山市中学生



学年別ソフトテニス選手権大会(2年生大会)では、女子の部で伊野裕美・岡島凛ペアが第3位となりました。特設駅伝部の頑張りも含めて、9月23日から開催される市中体連新人総合大会に向けて、他の運動部への弾みにもなりました。



半年ぶりの全校活動が実現！ 市駅伝大会壮行会実施される

8月24日（月）4校時に「市駅伝大会壮行会」が行われました。当初は21日に実施する予定でしたが、猛暑日となりその危険な暑さから延期としました。放送での実施も考えられましたが、この壮行会の実施にはいくつかの大切な意味があり、全校生が一堂に会して行う活動として実施することにしました。



特に1年生にとっては初めての壮行会ということで、壮行会の前に、今回応援団のリーダーを務めた3年中村桜さんから応援の意義や応援の仕方についての話がありました。厳しい練習に耐えてきた特設駅伝部の健闘を心から祈る強い思いが感じられました。

そして、いよいよ吹奏楽部の演奏によって選手が入場し、会が始まりました。校長の挨拶に続き、生徒会長吉田颯希さんより激励の言葉がありました。その後、選手が登壇し、一人一人が「つらい練習に耐えてきたこと、悔いの残らない走りをする、襷をしっかりと繋ぐことなど、大会に向けた決意を述べました。

応援では、応援団、校旗が登壇し、校歌、手拍子、エールによる応援が行われました。朝練を重ねてきた応援団のメリハリのあるリードは素晴らしいものでした。持てる力を全て出し切りたいという思いが伝わってくる応援でした。さらに「レッツ・ゴー」という新しい応援の型も披露してくれました。

全校応援の後には、今回特別に吹奏楽部による応援演奏が行われました。壮行会にぴったりの「栄光の架け橋」が演奏されました。心が奮い立つ素晴らしい演奏でした。数名の3年生も演奏に加わり、中学校最後の演奏として締めくくってくれました。

最後に駅伝部部長の佐竹君が選手代表お礼の言葉を述べました。そして、吹奏楽部の演奏のもと全校生の拍手の中、選手が退場し、会が終了しました。



放送ではなく一堂に会しての壮行会実施の意味は、駅伝部への激励はもちろん、1学期からこの会のために練習を続けてきた応援団のため、そして、各種コンクールが中止となり演奏の場がなかった吹奏楽部のためでもあったということです。



応援団と吹奏楽部の生徒達は見事にこの思いにこたえてくれました。そして、壮行会で披露された応援と演奏は、駅伝部の生徒達の心にしっかりと届いたと思います。

新型コロナウイルスの感染は止みません。県内でも感染者の確認が連日続いています。感染症対策には気を緩めず取り組んでいくことはもちろんですが、全校生が集う行事や活動については、今後もその目的に照らし合わせながら方法を工夫し、状況を注視しながら行っていきたいと考えています。

たくさんのキャップが集まりました！ “エコキャップ収集ウィーク”

“エコキャップ及びベルマークの収集ウィーク”として、今週は毎朝JRCベルマーク委員会の生徒達が昇降口前に立ち、エコキャップの収集を行いました。5日間でたくさんのキャップが集められました。

家族ぐるみでの協力があつたことがわかります。ご家庭の皆様のご協力に感謝いたします。キャップを分別回収し再資源化を図ることで、地球環境の改善に寄与できると同時に、キャップの売却益で途上国の子ども達にポリオなどのワクチンを届けることができます。キャップ430個で10円。ポリオワクチン1人分が20円。キャップ860個で1人の子どもの命を救うことになると言われています。我々のちょっとした心がけで、世界の子ども達の命が救える…有意義な活動です。

